

しあわせ

6 月 号



みだ じょうど
弥陀の浄土に帰しぬれば

すなはち諸仏に帰するなり

いっしん
一心をもちて一仏を

ほむるは無碍人をほむるなり

(『浄土和讃』四八)

弥陀の本願を信じて浄土に生れる人は、
一切の仏方の心に順うことになり
二心なき心をもって一仏を讃えること
は、あらゆる仏方を讃えることなのです。

(意訳)

※无碍人：生死一如とさとられている
あらゆる仏さま方の尊称。

「手を合わす母」

毎日、新聞テレビの話題に上る新型コロナ。ワクチン接種が始まって明るい兆しが見えてくるのももうすぐと、期待したいところだが、どっこいオリンピック開催も危うくなりそうな気配でもある。

とは言え、梅雨や夏に向かって湿度や気温も高くなることに加え、徐々にワクチン効果が出始めることを期待したい。

コロナで家に閉じ込められる生活に辟易して、つい羽を伸ばしたくなるのも人情だが、辛抱辛抱というところか。

仏道修行に六つの基本的な教えがある。布施、持戒、忍辱、精進、禪定・智慧。今まさにこの六つの教えが試されている。

苦しい今こそ、他者へ思いやる心・布施、政府からの要請に応える持戒、じっと耐える忍辱そしてひたすら心を平静に保つ禪定、これらを日々精進する智慧の眼を育てよとのコロナからの贈り物であろうか。

法座案内

安居会法要

六月 六日(日) 昼席のみ
法話 自坊住職

※新型コロナの影響により、講師を住職自動に変更し、一席のみの短縮日程と致します。

法味の会ーご和讃のこころー

六月十八日 午前十時
お話し 自坊住職

広島聞熏会 仏弟子に学ぶ

六月二十四日 午後二時
講師 内藤昭文師(本願寺派司教)

※本堂内は常時換気しておりますが、参拝の際は、検温・マスク着用をお願い致します。

府中町山田二丁目一五十三
栢原山 龍仙寺

電話(〇八二)二八二四八二



① 諸仏のころにかなう道①

薬師如来、大日如来、阿弥陀如来…大乘仏教では多くの仏さまが説かれますが、法然聖人や親鸞聖人は、ただ阿弥陀さま一仏を信ずる道を説かれました。そのため諸宗からはげしい弾圧をうけ、ご流罪にまでなられました。諸仏をさしおいて弥陀一仏への帰依を説くその教えが、諸仏を軽んじているとみられたのです。しかし法然聖人が弥陀一仏への帰依を説かれたのは、けっして諸仏を軽んじたのではありません。心よわき凡夫は、きびしい学問修行を要する諸仏の教えでは救われようがないからであり、その凡夫のために起こされたのが弥陀の本願だったからです。

川の水が低いところへ低いところへと流れこむように、阿弥陀さまの本願は、心よわき凡夫にこそかけられています。法然聖人は、ひとえにその大悲の願いに身をゆだね、凡夫のまま生死の苦悩をこえる道を説かれました。

た。そして親鸞聖人は、阿弥陀さまの本願を

信ずることが、あらゆる仏方を敬うことになると説かれました。人々を生死の苦しみから救うことこそ、諸仏の本意だったからです。

ところで、あらゆる仏方とは過去・未来・現在のすべての仏さまのことですが、過去仏とはお釈迦さまのように過去に出られた仏さま、現在仏とは薬師如来など現在に十方世界にまします仏さまを指します。しかし、未来の仏方とはどのような方なのでしょう。

法然聖人がご流罪になったときのことです。讃岐の塩飽（しあく）という地に赴かれた聖人は、地頭であった西忍（さいにん）の館に泊まりました。前夜に満月の光が衣の袖にやどる夢をみていた西忍は、このことであつたか！と喜び、聖人をもてなし、聖人のご説法を聞きました。そのとき聖人は『法華経』にある常不軽菩薩（じょうぶきょうぼさつ）のお話をされたと伝わっています。

常不軽菩薩とは、とくべつな学問や修行はしないけれども、あらゆる人々に対して、

「あなたはいつか仏となるべき人です」

と合掌しつづけた人でした。心ない人々は、気味悪がつてののしりますが、菩薩は人々を合掌しつづけます。さらには杖で叩かれたり、石を投げられたりしますが、菩薩は杖や石が当たらないところまで逃げ、その人々に向かって合掌するのです。そうして出遇うすべての人々を、未来に仏となるべき方として敬いつづけたこの菩薩こそ、お釈迦さまの前世の姿であつたとお経に説かれています。法然聖人も、いわれなき弾圧のなかで流罪となりながら、憎しみをもって応えず、ただ念仏を勧めつづけられました。弥陀の本願をひとすじに仰がれた聖人は、あらゆる人々を阿弥陀さまに願われた仏の子として敬われたのです。常不軽菩薩のように、自らを憎みそしる人々をも憎みそしることなく。つまり本願を信ず

る人にとって、未来の仏とは、阿弥陀さまに願われている一切衆生のことなのです。

見上げてごらん 夜の星を

ちいさな星の ちいさな光がー

先日、娘たちがくりかえしくりかえし、お風呂で歌っていました。ほんとうに良い歌は世代を問わないですね。ふと夜空を仰ぐと小さな星が目に入り、そこから「あ、あそこにも」「こっちにも！」と星がふえて、気がつけば満天の星空のもとにいた。誰しもそんな経験があるのではないのでしょうか。ふと目に入った小さな星が、満天の星空を教えてください。そのように、ひとすじに阿弥陀さまの本願を仰ぐところに、あらゆる仏方の御心にかない、あらゆる人々を仏の子として敬う道がひらかれているのです。ともにお念仏いただきます。阿弥陀さまの願いを仰ぎつつ、満天の星空のような仏さま方の御心のもと、この道を歩ませていただきます。